

様式 4

平成 2 3 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校
学校長 牧 尚志

評 価 日	平成 2 3 年 1 0 月 1 3 日 (木)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について 重点目標の達成状況 ○規律ある生活と「文武両道」による自立の促進について ・ 中間評価が C である理由は。 ・ 10 月に道路交通法が改正になったが、傘さしの自転車の運転の指導はどうか。 ・ 携帯電話を使用しながらの自転車運転は危険である。事故が起こってからでは遅い。早めの指導をお願いしたい。 ○中高連携の強化と高大接続の円滑化について ・ 中間評価が A である理由について。 ・ 倉吉東中に熱心に来てもらい、丁寧に教えてもらっていることに、感謝している。中高連携で次の点が重要であることを認識した。ポイントを得た指導の大切さ。長文読解等レベルの高い指導をしてもらっているが、生徒がわからなかったところは次の授業で中学校の教員がきちんと指導すること。このことが上位層の少なさの改善につながっていくと考えている。 ・ 高校入試で中部地区の生徒の英語の成績が低い、中部地区の中学校できちんとした診断テストを作り、改善につなげていきたい。		・ 部室の管理、ゴミの出し方等に問題がある。また、アカデミックな刺激に対してはよく反応しているが、規律ある生活に関して、一部の生徒に自覚が乏しい。 ・ 文書を保護者会で保護者に渡し、知らせている。また、生徒に対しては終始業式(9月30日)で指導し、全員に周知させている。 ・ ポンチョの購入、ブレーキやライト等の自転車整備についても指導している。 ・ 現状を十分に把握しているとはいえない。把握し、早急に対応したい。 ・ 本校と倉吉東中との連携はうまくいっている。県内でも模範となるものとなっている。 ・ 先日、先進校の中高一貫校に倉吉東中と本校合同で視察に行った。一年目の現在の取り組みを後期、来年度に生かし、意欲を持って取り組んでいきたい。

○教員研修の充実と授業の工夫改善について ・授業評価アンケート（6月実施）について、⑤「なぜ？と疑問に思ったら、先生に質問をおこなっている」⑥「授業から更に発展した内容を自発的に学習している」は、他の項目に比べA評価が10%と低い。 ・学校全体としての授業評価はわかったが、各学年における授業評価はどうか。1年と3年ではどう違うのかより、学年が進むにつれ、どう変わっていくのかが知りたい。追跡調査が必要ではないか。 ・授業評価アンケートの⑤⑥については、授業には限りがある。インターネット等や何らかのことで自ら取り組んでいることを含めて考えれば、A評価の数字は高くなるのでは。⑥の「発展した内容」の表現は生徒にはわかりにくいので、わかりやすい文言を考えてみてはどうだろう。	・昨年より⑤⑥の項目はA評価は上がり10%を超えたが、まだまだ十分ではない。主体的な学習者の育成、協同的な学びをいかに高めていくかが、大きな課題であり、それらが伸びていくのが本校の目ざす姿である。 ・全ての生徒からアンケートを取っているわけではない。各学年がどうかはよくわからないが、このアンケート結果をどう活かすか、更に検討し、次回しっかりと報告したい。
○教員の進路指導（進路目標を見据えた生き方指導）力向上について	・評価はCである。主体的な学習者の育成が図れるよう、協同的な学びに向け、授業の工夫改善を行っているが、まだまだであり、教員間に差が見られる。
○国公立大学合格者数の維持・発展に関して ・1年生は定員が200名になったが、学習面・生活面の状況はどうか。 ・2年生はどうか。	・スタディサポート（入学時、8月実施）のデータでは、学力面では例年より下位層が少なくなっている。進研模試（6月実施）では、学力が伸びきれていない。いかにフォローしきれるか、教員の責任である。 ・定員が少なくなった分、小回りが利き、多くの生徒と接することができる。その利点を生かしながら下位層を刺激し、底上げをしていきたい。生活面では、落ち着いた生活を送っている。 ・素直な生徒が多い。学力面では学習遅進者に手を入れてきたが、アップアップの生徒が出てきた。気を緩め

・ 3 年生はどうか。 ○専攻科教育の充実について ・「学び祭り」は専攻科の保護者が知っているだけで、認知度が低いのではないか。現役生徒の保護者へも情報を発信してはどうか。 ○定時制教育の充実について ・就職に関してはいいが、進学を目指す生徒に対して、全日制の取り組みを活用する指導もしてはどうか。 2. 学校運営への提言 ・よくやっておられるが、社会で大切なのは、1の「規律ある生活」である。3の「教員の進路指導力」等も含め、一番大切なところがC評価である。こういうところが伸びてほしい。	ず、しっかりと指導をしていく。また、上位層が少ないので、いろいろ刺激を与え、学習面に反映させていきたい。 ・幼稚な部分があり、生活面で引き締めを行ってきた。学校祭ではリーダー性を発揮すると同時に、学習への切り替えがスムーズに出来た。落ち着いて勉強している。超上位層は少ないのが、課題である。 ・学びの本質に触れることにより現役生をリードし、国公立大学合格数を50名維持するよう努めている。 ・育友会の方で情報を発信している。現役生はその時期、国際高校生フォーラムがある。 ・改善策として、現役生にも広めるようにしたい。記録として残せば、現役生にも役立つ。図書館には文書記録として残してある。 ・会場、外部へのアピール、開催時期の点（学校祭と同じ時）記録の残し方を含めて、何か工夫、改善をしたい。 ・生徒が自分の進路を切り拓けるように教職員全員で指導に当たっている。面接の効果があり、現在、休学者・退学者はない。 ・進学指導課外を工夫したり、全日制の進路情報の提供など、必要なことだと考えている。
--	---